

審査論文要旨（日本文）

論文提出者氏名： 細川勇一

審査論文

題 名： Surgical outcomes of pancreaticoduodenectomy for pancreatic cancer with proximal dorsal jejunal vein involvement

（膵頭部癌における Proximal dorsal jejunal vein の解剖学的分類および resectability に関する検討）

著 者： Yuichi Hosokawa, Yuichi Nagakawa, Yatsuka Sahara, Chie Takishita, Tetsushi Nakajima, Yosuke Hijikata, Hiroaki Osakabe, Tomoki Shirota, Kazuhiro Saito, Hiroshi Yamaguchi, Keiichiro Inoue, Kenji Katsumata, Takayoshi Tsuchiya, Atsushi Sofuni, Takao Itoi, Akihiko Tsuchida

掲載誌： Journal of Gastrointestinal Surgery (in press, 2018)

（審査論文要旨：日本語論文の場合 1,000 字以内・英語論文の場合 500 words）

【背景と目的】

膵頭部癌は、しばしば門脈浸潤や近位空腸静脈浸潤を認めることが多い。The national Comprehensive Cancer Network (NCCN)のガイドラインにおいては、近位空腸静脈浸潤を伴う膵頭部癌は Unresectable と定義されているが、日本の膵癌取り扱い規約では Resectable と定義されている。この乖離は、近位空腸静脈の解剖学的 variation が多数存在すること、その様々な variation により近位空腸静脈浸潤も variation を有することによるものであると考えられる。しかし、近位空腸静脈の走行を詳細に検討した報告はほとんどなく、膵癌の近位空腸静脈浸潤について検討した報告は認められない。一方で、最近の画像診断の進歩から MDCT を用いた詳細な血管走行の検討が可能となってきた。今回我々は膵頭部癌症例を対象とし、MDCT の解析から近位空腸静脈の解剖学的 variation を検討、分類した。膵癌の浸潤を受けやすく、下膵十二指腸静脈をドレナージする近位空腸静脈を proximal dorsal jejunal vein (PDJV) と定義し、その解剖学的 variation を検討し、PDJV 浸潤を伴う膵頭部癌の切除成績を検討した。

【対象および方法】

2011 年 10 月～2017 年 3 月に膵頭部癌に対して膵頭十二指腸切除術を行った 121 例を対象とした。術前 MDCT から、十二指腸下縁より頭側の近位空腸静脈の解剖学的分類を行った。そのうち下膵十二指腸静脈をドレナージする空腸静脈を PDJV と定義し、解剖学的検討を行い、MDCT にて PDJV 浸潤を有する膵頭部癌の治療成績を検討した。

【結果】

MDCT にて近位空腸静脈の解剖学的 variation は 7 タイプに分類され、PDJV は 104 例 (94%) に認めた。13 例に近位空腸静脈浸潤を認め、これらはすべて PDJV であった。術前 MDCT で PDJV 浸潤有無における比較では PDJV(+)群 (13 例) での根治切除率 92%、3 年生存率 61% であり、PDJV(-)群 (108 例) での根治切除率 86%、3 年生存率 58%と有意差を認めなかった。

【結論・考察】

MDCT にて十二指腸下縁より頭側の近位空腸静脈は、解剖学的に 7 タイプに分類された。空腸静脈浸潤陽性の膵頭部癌でも、外科的切除により浸潤陰性例と同等の予後が期待できる可能性があると考えられた。

